

2024年5月5日 主日礼拝 復活節 第6主日 聖餐礼拝

説教題: 「**神の国にふさわしく生きる**」 聖書箇所: **ルカによる福音書9章51-62節** (124頁)

説教者: 秀島牧師 招詞: 讃美歌93-1-44 交読詩編: 第74編18-21節 (81頁)

讃美歌: 83/6 (つくりぬしを賛美します) /510 (主よ、終わりまで) /78 (わが主よ、ここに集い) /27

「今週の聖句」〔イエスはその人に、「鋤に手をかけてから後ろを顧みる者は、神の国にふさわしくない」と言われた。〕 (ルカ伝9:62)

「牧師室の窓」 「誰よりも 痛みを知れる 主のもとの 基督教は ガザに三猿 (さんえん) 」
「銃ならず 平和のしるし 鯉のぼり 高く泳ぎて ガザに平和を」

(1)皆様おはようございます。本日はルカによる福音書第9章を前半・中間・後半との3つ分けた内の後半部分を読んで参ります。前回にも申しあげました様にこの第9章はルカによる福音書の中では重要な箇所であります。繰り返しますと、ルカ福音書が書かれた理由と言うのは、外国人である人々に対して、つまり、私たちを含めて、次の2つのことを記している、或いは、証明しようとしていつのです。その2つのうちの1つは「イエス・キリストとは何者なのか」であり、もう1つは「イエス・キリストは何故来られたのか、何のために来られたのか」であります。この2つのことを理解することが、即ち、私たちの生きざまであり、人生であります。それは何故かと言いますと、キリストの御言葉によって、聖書の御言葉によって、私たちは自分自身を発見して生きて行くことに他ならないからであります。

第9章はこの2つの主題・テーマのうちの第1番目のテーマである「イエス・キリストとは何者なのか」について、そして、「弟子とは誰か、弟子は何をすべきなのか」を記しています。弟子の中にはルカ福音書の読み手である「私たち」も含まれていることに注意をする必要があります。と言うことは、私たちが、うわの空で、他人事(ひとごと)として読んではならないのです。

(2)今日の聖書箇所は51節から始まります。〔(9:51)イエスは、天に上げられる時期が近づくと、エルサレムに向かう決意を固められた。〕ここに書かれている「天に上げられる時期が近づくと」と言うのは、イエス様の十字架での死を示しています。つまり、イエス様は何のために来られたのかを示そうとしていますが、この51節の力点・ポイントは後半にある「エルサレムに向かう決意を固められた」と言う言葉にあります。何故ならば、イエス様が活動された場所は大きく分けると、第1番目の舞台はガリラヤでの伝道の開始・スタートであり、第2番目の舞台はガリラヤからエルサレムへ向かう途中の出来事であり、第3番目の舞台はエルサレムでの出来事に区分されます。ルカ福音書の第9章はエルサレムに向けて出発するための準備の箇所でもあります。出発するために最も重要なことが2つあります。それは、まず第1に「イエスとは何者なのか」を示すことであり、ペトロが「神からのメシア (正確には、神のキリスト) です」と答えており、「イエスの姿が変わり輝いた」と表現しています。第2に重要なことは「これからの伝道旅行で苦楽を共にする弟子たちの教育」です。即ち、弟子としての「仮免許証」が必要なのです。

(3)52節には、弟子たちがガリラヤを出発して「サマリア人の村に入った」と書かれています。サマリアはユダヤ本国と北にあるガリラヤ地方との中間に位置しています。サマリア地域は、イエス様の時代から約7百数十年前に北イスラエル王国がアッシリアによって滅ぼされ、他民族による支配が続き、ユダヤ民族とは反目・敵対するようになったのです。ルカ福音書の第10章に著名な「善きサマリア人(びと)」の譬え話が示している様に、ユダヤ人とサマリア人との間には深い対立があったのです。単に、博愛精神のあるなしの判断ではありません。まさに現在進行しているパレスチナのガザでの戦争にも通じるものがあります。私たち日本人は歴史上で民族対立を殆んど体験していないと言っても過言ではありませんので、多くの日本人には飲み水や生命の安全があるのは当然のことであり、飲み水や生命の安全を得るためにお金を費やすことを理解することが出来ません。平和はただで得られるもの、努力をしなくても当然に与えられる権利であると理解している人が多いように思われます。この52節にある、弟子たちが「サマリア人の村に入」いるには過度の不安と緊張感があったのです。54節では、弟子のヤコブとヨハネがサマリア人を「焼き滅ぼしましょうか」と過激な発言をして、イエス様は二人の弟子を戒めておられます。これからの伝道旅行にはまだまだ心の準備が不十分です。

(4)今日の聖書箇所と同じページの上の段では弟子たちの間で誰が一番偉いのかと言い合っています。それに対して、イエス様は48節では〔子供を受け入れる者／わたしを受け入れる／わたしを受け入れる者／わたしをお遣わしになった方を受け入れる〕と書いてあり「受け入れる」が4回も繰り返されています。4回繰り返しているのは、様々な場面で、考えなさい、工夫しなさい、やってみなさいと促しているのです。そして、「最も小さい者こそ、最も偉い者である」と教えられています。ここにも「聖書に特有な逆転の発想」が示されています。また50節では、排除するのではなく協力することの大切さを示しているのです。

(5)扱て、本日の57節からはキリストの弟子となるための心構えが、仮免許証の試験問題として、「3つの項目」が記されています。試験問題とは言っても○か×かではありません。よく考えなさいとイエス様は言っておられるのです。第1問目として、Aさんが登場してきます。Aさんは57節で「あなたがおいでになる所なら、どこへでも従って参ります」と言いますが、イエス様は58節で「狐には穴があり、空の鳥には巢がある。だが、人の子には枕する所もない。」と言われました。イエス様の答えはAさんの答えにはなっていないように思われますが如何でしょうか。Aさんが言っている「どこへでも従って参ります」とは、どの様な気持ちを表現しているのでしょうか。通り一遍の社交辞令であるのか、或いは、たとえ火の中水の中でも危険を顧みず従っていくと言う決意なのでしょう。…余談ですが、学生時代に、たとえ火の中水の中あなたと共に生きるを英語では何と言うのか、クイズ形式で様々な英語の表現を下宿の友人と学んだことがあります。また、私は信徒時代に仕事を徹底的に仕込まれました。中途半端な仕事はプロとは認められません。イエス様が「人の子には枕する所もない」と言われたのは、9章23節にある〔(9:23)わたし

について来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。』を言い換えた具体例であると思います。

(6)次に59節ではBさんが「主よ、まず、父を葬りに行かせてください」と言ったのです。それに対してイエス様は信じられないような驚くべきことを言葉にされます。60節です。〔(9:60)イエスは言われた。「死んでいる者たちに、自分たちの死者を葬らせなさい。あなたは行って、神の国を言い広めなさい。」〕旧約聖書出エジプト記と申命記に書かれているモーセの十戒には「あなたの父母(ちちはは)を敬え」と記されています。また、ユダヤの社会は家父長による父系社会ですから、父母の葬儀を何よりも優先することが重視されていました。…先月4月に大相撲の元横綱「曙」が亡くなったことが伝えられました。曙は同じハワイ出身の大相撲力士であった高見山に見出されました。その高見山は相撲の現役時代に5月場所が始まる直前にハワイにいる母親が亡くなりました。母の葬儀に出席できず、母を偲びつつ15日間の5月場所を勝ち越して終えて、ハワイに行きました。私が就職して新人の駆け出し時代のことで、印象深く記憶しています。私の大阪勤務時代のことですが、私の妻が手術で手術室に入る丁度その時に駆け付けることになりました。もっと早く来て励ますべきでしたが、責任のある仕事を中断することは出来ず、手術前の妻に声を掛けることが出来ませんでした。仕事の事情と家族の事情とが時に交差して悩むことがありますね。

続いて、Cさんの場合は如何でしょうか。61節62節です。〔(9:61)また、別の人も言った。「主よ、あなたに従います。しかし、まず家族にいとまごいに行かせてください。」/(9:62)イエスはその人に、「鋤(すき)に手をかけてから後ろを顧みる者は、神の国にふさわしくない」と言われた。〕ここに書かれている「鋤(すき)」とは農作業で畑を掘り起こす道具です。土を掘り起こして種を蒔きます。イエス様は、御言葉の種蒔きを始めたならばそのことに邁進しなさいと言っておられるのです。

きょうの聖書箇所が登場するAさんもBさんもCさんも夫々に事情があるのです。イエス様は夫々の事情を否定してはなりません。もしも葬儀を否定しているとするならば、キリストの教会では葬儀を今日に至るまで行なうことはありませんでした。イエス様の今日の聖書箇所の言葉は「神の国に相應しく生きるとは何かを考えてみなさい」と私たちに問い掛けておられるのだと思います。私たちがクリスチャンとしての仮免許証を準備されている御言葉と理解してよいのです。

(7)今日の聖書箇所は文字を表面的に読むと親への不孝・家族をないがしろにする言葉と理解されてしまいます。現に、戦前に日本ではこのことがとんでもないことであると、キリスト教は批判されました。聖書は、他の宗教書にも言えることですが、前後の文脈で読んでこそ、時には逆転の発想によってこそ、理解できるのです。クリスチャンであっても、ある部分の箇所だけを切り取って読んで理解しようとするれば、間違った読み方になってしまいます。ましてや、現代社会では偽物やウソ情報が蔓延しています。私は若い頃に羽田空港に勤務していたことがあります。当時は日本

で唯一の国際空港でした。仕事上でアメリカの紙幣ドル札や世界各国のお金を扱っていました。偽ドルが紛れ込むことの無い様に注意して扱いました。偽ドルは、手で触った感触が異なり、印刷されている人物の目の輝きが異なり、印刷インクの浸み込み状況が異なります。偽ドルの発見氏は注意深い経験と勘働きが不可欠です。この世の中には羊の皮をかぶったオオカミがいないとも限りません。聖書を読むことは、神の国に相応しく生きるための訓練であり、生きる希望であります。神の言葉を聴く、イエス・キリストの声を聴くように読むことが大切です。コツコツと御言葉に触れて神の国にふさわしい生き方を歩み続けようではありませんか。

・・・お祈りいたします。

〔**新共同訳**(ルカによる福音書9:51)イエスは、天に上げられる時期が近づくと、エルサレムに向かう決意を固められた。/(9:52)そして、先に使いの者を出された。彼らは行って、イエスのために準備しようと、サマリア人の村に入った。/(9:53)しかし、村人はイエスを歓迎しなかった。イエスがエルサレムを目指して進んでおられたからである。/(9:54)弟子のヤコブとヨハネはそれを見て、「主よ、お望みなら、天から火を降らせて、彼らを焼き滅ぼしましょうか」と言った。/(9:55)イエスは振り向いて二人を戒められた。/(9:56)そして、一行は別の村に行った。/(9:57)一行が道を進んで行くと、イエスに対して、「あなたがおいでになる所なら、どこへでも従って参ります」と言う人がいた。/(9:58)イエスは言われた。「狐には穴があり、空の鳥には巣がある。だが、人の子には枕する所もない。」/(9:59)そして別の人に、「わたしに従いなさい」と言われたが、その人は、「主よ、まず、父を葬りに行かせてください」と言った。/(9:60)イエスは言われた。「死んでいる者たちに、自分たちの死者を葬らせなさい。あなたは行って、神の国を言い広めなさい。」/(9:61)また、別の人も言った。「主よ、あなたに従います。しかし、まず家族にいとまごいに行かせてください。」/(9:62)イエスはその人に、「鋤(すき)に手をかけてから後ろを顧みる者は、神の国にふさわしくない」と言われた。〕